

爺さんの叫び

このところ年齢を実感する出来事が多くなり、がっかりしています。この一ヶ月で経験した出来事をまとめてみました。

3週間前位に MDS の学会で Vancouver に出張しました。昨年も Vancouver に行っており、その時はいままでどおりに出発できたので、そのつもりで羽田に行きました。そこで最初の事件が起きました。この一年の間にカナダ入国に対して米国の ESTA に当たる手続きが必要となっていたのです。ANA の発券カウンターで切符を発券できないと言われたのです。発券できないとカナダに行けないのかと聞くと、なにを馬鹿なことを言っていると言う雰囲気、当たり前でしょうと言うことでした。ただし、インターネット経由でこの場で、ESTA の発行をカナダの大使館に依頼できると言うことで、発券カウンターの横で手続きをすることになり、その作業を行いました。そこで、ANA の陸上職員に助けをいただきながら作業を進めました。大体 15 分くらいで済むということで進めていましたが、2 回やっても何かの理由で、手続きが進まなくなるのです。ANA の職員の方も理由がわからず、困っていました。すると、同じ飛行機で行く予定の T 大学の H 教授が苦勞しているおじいさんを見つけて、一緒にやりましょうかと助けてくれた。ただ、この時の一言がまたもや強烈、“自分でやっていて私がやると嫌がるから、ここにいた方がいいの、それともいない方がいいの、慌てているからそばにいて愚痴を聞いた方がいいの”というのである。心細さからもちろんいてくれた方が良いでしょうと答えた。最終的に一時間かかり手続きが完了して、なんとか飛行機に乗れた。後で原因が分かったのだが、最近のコンピュータが賢くて、カナダの手続きでアドレスなどを入れようとすると、以前の記録を参照して自動で書いてくれることがあり、今回それを利用したのですが、どうもいちいちその場で打ち込まないと正しいと判定してくれないようで、この作業のため手間取っていたのである。私より後から来て、同じことをしていた人は確かに 15 分くらいで終わり、行ってしまったのですが、その時は本当にカナダにいけないかと心配しました。最新のテクノロジーについて行っていない爺さんの実感でした。最終的に手続きが済み、発券してもらえた時に、ANA の職員の方が本当に良かったですね、と喜んでくれました。外交辞令と思うが、笑顔の訓練ができている人たちだと思ったのでした。

Vancouver での自分の発表の後に、私の気持ちを打ち砕くことがあった。これは特別な事件というより、いつものことである。今回ミオクローヌスについて講演して、それなりにおもしろく話せたと思っていたのですが、講演終了直後に福島医大の K 講師から、先生の話をはしより過ぎでしょう、誰も先生の言いたいことを解っていませんよと、いつもの通りきつい一言をいただいた。確かに、生理のことを詳しくは説明しなかったと反省していると、またもや T 大学の H 教授から、“私たちはいつも聞いていて知っているから良いけど、はじめて聞いた人は解らないでしょう”と、追撃を受けた。それもそうかなと思っていると、今

度は何人かの外国の先生、日本の K 大学の T 教授、J 大学の H 教授、その他生理を専門とはしていない人々から、“今日の先生の話は良かった、いつものように波形が多い事がなく、ビデオでの説明が良かった”と、正反対の評価をもらった。外交辞令もあると思うが、どうも本音のようだ。結局、生理専門の人は僕の生理の所を解ろうとして、それでは足りないと言っていて、生理が専門でない人はもともと生理を解るつもりがなく、そこで生理の説明が短くて臨床症状などを話してくれて良かったと言うことと、自分なりに理解した。気持ちは分かるが、すると生理のことはオタク医者だけでながながと話をして、他の人には解らないくらい簡単に話せということかと、自分の存在意義を問われる感覚に襲われ、私はじいさんかと思った。

次に実感したのは先週末である。先週末に天城で、国際 MDS の教育プログラムが実施された。私も参加し、司会だけ行った。自分の車で参加したのであるが、ここでもやってしまった。Ditto という携帯電話が鳴ると振動で着信を教えてくれる器具を手首につけていたのであるが、それをどうも運転中に料金所で支払う時に落としたのであろうと今からは考えられる。そのことに、学会出席中に気がついた私は、ホテルで落としたと考えて、ホテルの人に落とし物がないかを尋ねた。なかった。しかし、どこかにあるのではと思っていた私は、詳しく聞くと、さすがホテルの職員である、みんなで探してくれて、それでもないということであった。夜間に尋ねたため、翌朝明るくなってからまた探しますと言う事で、翌朝早くから、ホテルの方々が玄関、庭、ホテル内など探してくれていた。申し訳ないし、それほど高いものでもないのに、良いですよ、有り難うございますと挨拶をした。おそらく、彼らは人騒がせなやつだと思っていたと想像する。これもまた、爺さんを実感する出来事であった。

更に困ったこと、本当に困っていることが起きた。錦織現象である。いつも出張などの外出の時は、転がす大きなキャリーケースを持ち歩いている。TUMI のがっしりした、だけど重たいものである。東京駅の地下での地下鉄乗り換えなどで、それを転がさずに持ち歩いていたところ、福島に戻ったら、左の固有背筋に痛みが出現した。右手に持っていたのに左の背筋がどうして痛いのかとと思っていると、それが理にかなっていると判明した。プロ野球の投手だった経験のある MR さんに荷物もって左の背筋が痛くなったと言ったら、右手で荷物を持ちましたかと聞かれた。どうしてわかるのかとあって、聞き返すと以下のようなことである。右手で重いものを持つときは、右の手の筋肉を主に使うとともに、持つ体を維持、支えるのは左の背筋となるようである。医者が MR さんから医学知識を教わるというお粗末な話である。筋肉があまりない私にしては、大きすぎる鞆を持っているということなのであるが、私自身が老化して、筋力が衰えてきたのも一因であろう。やはり、じいさんを実感した出来事である。痛みの出現した翌日に T 大学の H 教授に招待されて、出張したが、このときに痛みをこらえて荷物を運ぶのか大変で、付き添ってくれた会社の方に荷物を持っていただいた。まさに、付き添い介助をお願いしている、じいさんということになる。皆さん、体を鍛えておきましょう。